

紫香楽宮の

巨大工場

〜鍛冶屋敷遺跡〜

史跡紫香楽宮跡の北東約400mに位置する鍛冶屋敷遺跡も第2名神高速道路の建設に伴う発掘調査で大規模な鍛冶工房であることが明らかに、大きく3時期に区分できることが指摘されています。

特に第2・3段階の遺構は、この場所で官営の巨大な鑄物工場が設置され、甲可寺に銅製品を供給していたことを示すものとして注目されています。



鍛冶屋敷遺跡調査地全景(滋賀県教育委員会 提供)

第2段階では、銅をとかす炉、踏ブイゴ(火力を調整するための送風装置)、鑄型を置いた穴の鑄造に必要なセツトが十数基も規則的に配置されていました。

また第3段階は、一辺4.4〜5.0mほどの方形の大型鑄込み遺構が見つかり、梵鐘を鑄造していたことが、出土した鑄型から判明しました。

鑄型から推定した梵鐘の直径は1.8mを測り、現存する梵鐘との比較では、東大寺の梵鐘に次ぐ大きさです。また、梵鐘の内型が落下した状態で出土したことから、梵鐘の内型の形状が推測できる稀有な事例でした。

さらに、東大寺の調査でも確認されたものと同様に《2番目の溶解炉を管理する責任者》を意味する「二竈領」(このかまどのりょう)と墨書された土器が出土しています。

今回の発見は、甲賀寺の造営においても、東大寺の造営と同じように、複数の溶解炉を同時に用いる大規模鑄造炉が営まれていたと推測できます。

このように、鍛冶屋敷遺跡の発掘調査では古代の鑄造技術や官営工場の具体的なあり方を考える上で非常に重要な発見がありました。また、聖武天皇が大仏を安置すべく建立した甲賀寺の造営過程を知る手がかりをも物語つていると言えます。

宮町遺跡

国史跡指定

記念講演会

各地の遺跡の活用事例を通して、これからの紫香楽宮について考えたいと思います。

また、コンピュータCGで宮殿を復元した「よみがえれ紫香楽宮」のDVDも上映します。

参加費は無料です。申込は不要ですが、会場の都合により先着順とします。

日時 3月5日(土)

14:00〜16:30

場所 信楽町宮町公民館

講師 文化庁記念部課

主任調査官 坂井 秀弥

テーマ「地域と文化財」(仮題)

定員 80名

問い合わせ)

文化財保護課 ☎ 86-8026

紫香楽宮を考える ホームページがスタート!!



遺跡を守り、地域を活性化するためにどのような取り組みが必要か、教育委員会と宮町区の皆さんでこれからのまちづくりを考えています。市民の皆さんの意見やアイデアなどお聞かせください。

また、音声はありませんが「よみがえれ紫香楽宮」の動画の一部を見ることが出来ます。

▼ 詳しくはこちらのURLまで

<http://www.ex.biwa.ne.jp/~hakkutu/>